



# 松城健児だより

村松高校通信 10月号 第6号 平成29年10月31日発行

## 修学旅行 ～東北・東京～ 10月10日(火)～10月13日(金)

2年生が3泊4日の日程で修学旅行を実施しました。

初日は、東日本大震災で津波被害の大きかった岩手県陸前高田市を訪ね、現在の東北が抱える諸問題を目で見て、そして考えました。2日目からは東京で国会議事堂、ユニセフ、東京都庁などの施設見学、また5つの企業に分かれて業種や就業についての理解を深める学習を行いました。



看板には高さ14.5mまで津波が来たことが示されています

### ～生徒の感想より～

- ・話で聞くのと実際に見るとでは全然違った。6年半も経っているのに建物はほとんどなく、道の駅の中に松が流れ込んでいたり津波がどれほどひどいものだったかを実感した。
- ・想定にとらわれてしまったり、情報を得てから逃げようとした人が被害者になっていた。大切なのは、まず逃げてから情報を得ることだと分かった。
- ・被災地の方々や、復興を手伝う方々の強さを感じることができた。
- ・防潮堤がたくさん作られていて、被災経験が活かされていること、テレビの中の出来事ではなく、本当に大きな地震があったことを実感した。
- ・自分の身は自分で守れるよう、学校生活の避難訓練をみんながそれぞれ真剣に取り組むべきだと思いました。
- ・命を大切に、震災で亡くなってしまった方々の分まで一生懸命生きていこうと思いました。
- ・被災した人たちは、いつまた津波が来るかわからない恐怖と戦っているのではないかと感じた。
- ・世界には学校に行きたくてもいけない子ども達が多くいるが、徐々に支援が広がり勉強できる子どもが増えてきている。また、大人でも支援を必要としている人がいることが分かった。他の国のことを考えたりしていなかったが募金など力になれることをしていきたいと思った。(ユニセフ)
- ・アナウンサーが最も心がけていることは、ニュースをわかりやすく、すぐに調べると聞き、相手のことを考えること、分からないことはそのままにしないことはとても大切だと思った。(テレビ朝日)
- ・実際に取材をする体験を通して、記者の人たちがこれを毎日こなしているから私たちが新聞からいろいろな情報を得られるのだとわかった。(読売新聞)
- ・プログラミングの話で、自分で作ったものがそのままアプリになる可能性があることと聞き、ワクワクするものを感じた。(デジタルアーツ)
- ・「おいしさで幸せを作る」ために、と考えていたカーネルサンダースの素晴らしい人柄と社会貢献活動に力を入れていることにも感動した。(KFC)



津波の爪痕が残る道の駅「高田松原」中に入ることはできませんでした



防潮堤を作る工事が行われています

## ICTを活用した公開授業 10月26日(木)

2年生の数学Ⅱで公開授業を行い、五泉市内中学校の先生方等に参観していただきました。

村松高校の各学年フロアーには電子黒板を備えた教室が1つずつあります。この設備を活かして「わかる授業」の実践に取り組んでいます。



この授業では、図形ソフトと板書を併用して、より理解しやすい授業を目指しました

## 11月の行事予定

- 3 (金) 臥龍祭(文化祭)
- 7 (火)～13 (月) 読書週間
- 17 (金) 生徒会役員選挙
- 22 (水) 人権・同和教育講演会
- 30 (木)～12/5 (火) 2学期末考査

創立106年の伝統と誇り

新潟県立村松高等学校

校長 渡辺欣彦

〒959-1704 新潟県五泉市村松甲5545

(電話) 0250-58-6003 (FAX) 0250-58-1142

(ホームページ) <http://www.muramatsu-h.nein.ed.jp/>

\* 村松高校の取り組みを毎月紹介します \*